二本木で村政懇談会

ひざを交えて語り合う

地域課題を語り合う

村の現状や重点施策、将来構想の理解と、地域課題についても行政と地区住民がいっしょになって考え村政を進めようとの村政懇談会が、七月二十八日二本木地区で開かれました。

会場の二本木公会堂には、村から浅見村長ら三役と全課長が出席して、地元参加者二十人余りとひざを交えた話し合いが行われました。

懇談会では、村から将来構想、本年度重点施策、公共下水道の事業計画などの説明があり、地区の協力要請がされた後、地域課題についての意見交換が行われ、勤労者体育館、寿橋、道路振替、下水道工事、JR駅、小阿賀野川治水対策などの課題が活発に語り合われました。

＝交通安全指導所を設置＝

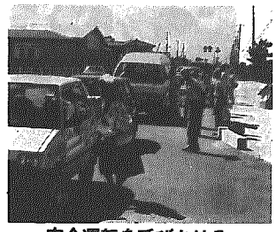
交通事故防止呼びかけ

七月二十一日から一カ月間行われた夏の交通事故防止運動の一環として、七月二十八日に国道四十九号線で交通安全指導所を設け、ドライバーに安全運転チラシとティッシュペーパーを配り、事故防止を訴えました。

指導所となった伊藤鉄工㈱前には、佐藤収入役をはじめ新潟南警察署員や交通安全母の会など約二十名が、午後二時から約一時間にわたって通過する車を一台一台止め、ドライバーにチラシを手渡しながら「安全運転を」と呼びかけました。

また、八月十一日には、県道新潟・新津線の山崎製パン㈱新潟工場前でも、指導所を設け事故防止を訴えました。

現在、県下はもとより村内で交通事故が多発している状況です。村民一人ひとりが交通ルールを守り、交通事故の防止に努めましょう。


安全運転を呼びかける

〝安全はゆずる気持ちと待つゆとり〟『秋の全国交通安全運動』9月21日～9月30日

地元購買率20%下る
商業の活性化を語ろう

先程、村内十%の世帯からご協力いただいた「広域商圏動向調査」結果の一部がまとまりました。

それによりますと、前回調査（昭61）と比べ村内での購買割合が、全体で三・二%下って一八・八%までになったことを、商工関係者をはじめ村としても大変驚いています。

車社会に加えて高速交通時代、商品・流通の多様化等々、消費圏域の拡大は時の流れとはいえ、横越村は人口の増加、大量に訪れる観光客にもかかわらず第一回調査（昭52）から地元購買率は、低下の一途です。このことを深刻な地場産業の衰退と見るか、消費性向や社会構造の変化でやむを得ない成り行きと見るか、関係者の大いなる論議を待たいものです。

年々、亀田町や新潟市方面への消費流出は、多種多様な大型店の進出、駐車場や商店街環境の整備等、誘客の魅力をもっているのも事実です。

横越村は今、大きく変りつつあり産業構造も著しく変化しています。村から町への足音も確実に聞えている今日、特に、村の中枢地区における商工業の振興のみならず、地域づくりとしての、諸機能の整備、充実が大きく問われていると思います。

それらの根本問題、対策は何か、でないでしょうか。

地元の出店もなく さびれる盆市

夏の風物誌でもある横越のお盆市が今年も八月十一日開かれました。

年々出店も少なくなった今年は、お盆のかざり物や金魚などを売る五店が、七十mの区間にポツンポツンと陣取って僅かな客がいる程度でした。

このお盆市も昭和三、四十年代は二十店も道をせばめて並び、人もごったかえした盛況期からみて、隔世の感がします。社会の変化でふだんの消費生活や買物ニーズから遠くなったのも否めず、村内出店がなくなったのも自然の流れかもしれません。

現在出店しているのは何れも二十年以上もきている、いわば老舗ばかりですが、伺ってみると、横越に限らず特定の市場を除いて露店市は、年々厳しい状況との事です。

さて、伝統と夏の風物誌、横越盆市も風前のともしびの「観」がしていますが、地元業者中心の地域住民のニーズに会った〝型〟を変えたイベントなどを組み込んだ新市場の創造は如何なものか。横越村一円の農工商一体の大産業祭の声が聞かれる昨今です。

年々店の数も減る横越盆市

買物地区割合

単位：%

買物品		買物地区	村内	新潟市	亀田町	新津市	水原町	京ヶ瀬村	その他県内	県外	無店舗販売
品目別	全商品	S61年	22.0	35.3	31.5	7.8	1.8	1.6			
		H元年	18.8	32.0	33.4	9.6	1.6	1.9	0.8	0.3	1.6
	買回品	S61年	14.0	46.1	29.9	6.8	1.3	1.9			
		H元年	12.2	41.1	31.6	9.1	1.3	2.6	0.8	0.5	0.8
	準買回品	S61年	20.9	28.0	36.0	11.6	2.5	1.0			
		H元年	13.7	24.3	39.7	12.6	2.2	0.4	0.7	0.5	5.9
	最寄品	S61年	45.6	9.5	33.1	8.0	2.8	1.0			
		H元年	41.3	8.9	35.1	9.8	1.5	2.0	0.3	0	1.1
地域別	横越		19.3	37.7	34.0	2.8	1.7	1.7	0.9	0.3	1.6
	沢海		22.2	24.1	19.8	21.1	4.0	5.5	0.8	0.4	2.1
	木津		17.0	26.5	34.6	18.1	0.5	1.3	1.1	0.1	0.8
	二本木		13.8	28.5	36.8	18.4	0	0.4	0.4	0.7	1.0
	小杉		20.1	31.8	43.4	0.7	0.6	0.6	0.5	0.2	2.1

買回品＝呉服、寝具、家具、レジャースポーツ用品、時計、カメラ、電気製品、文具、書籍など
準買回品＝実用衣料（下着、普段着）医薬品、化粧品
最寄品＝日用雑貨、生鮮食料品、一般食料品

9月10日は全国下水道促進デー

下水道一役買いますまちおこし

今年で第二十九回を迎える「全国下水道促進デー」は、自然と都市、人々と生活環境を守る下水道について、国・地方公共団体・都道府県（市町村）と地域の人たちが一体となって考え行動し積極的に整備促進を図ろうとする市民運動の日で、毎年九月十日に建設省と厚生省が主唱して行う全国的な行事です。

私たちの生活産業活動に生じる汚水は、美しい自然や生活環境を破壊する元凶となっています。下水道は快適で豊かな暮らしを維持していくのに欠かせないものになっています。

下水道の役割

下水道は美しい自然や人びとの健康で快適な生活環境をつくるために欠くことのできない重要な施設です。

海や川、湖などが きれいになります

汚れた水が川、湖や沼などに直接流れ込むことがなくなり、公共用水域の水質がきれいになります。

水洗便所の 使用ができます

汲み取り便所が水洗便所になり、衛生的で快適な生活ができるようになります。

街がきれいになります

ドブや水たまりがなくなり、街がきれいに整備されて、ハエや蚊の発生がなくなります。

下水道が完成すると

供用開始日と排水（処理）区域が公示されます

公共下水の工事が終わると、下水道を使用することができる日（供用開始日）と排水（処理）区域などが公示されます。

公示後、下水を公共下水道に流すことができるようになり、水洗便所の使用も可能になります。

三年以内に水洗便所に 改造しましょう

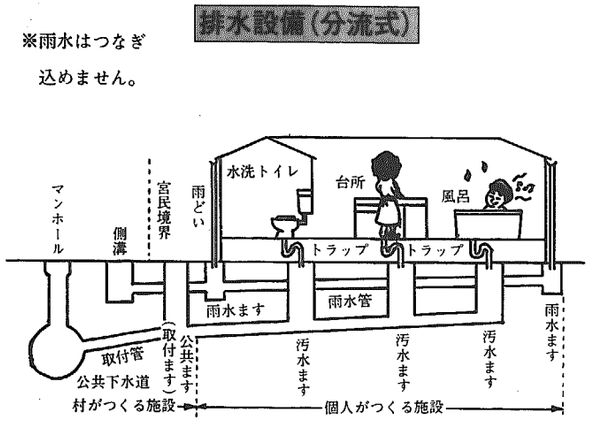
各家庭内の台所や風呂場、水洗便所などの排水を流すため、公共汚水ますに接続するまでの排水設備（私設下水道）を速やかに造るよう法律で義務づけられています。

また、くみ取便所は公示されてから三年以内に水洗トイレに改造するよう法律で義務づけられています。又、既に水洗化されていて、浄化槽を使用されている方もすみやかにこれを廃止し、直接下水道に接続しましょう。

汚水が公共下水道に流すことになってはじめてその目的が達成されることになります。

ところで、横越村の公共下水道も昭和五十四年に事業着手し、以来川根谷内地区より工事をすすめ、昭和五十九年十月には待望の供用開始することができました。また、二本木地区の一部においても平成元年三月三十一日に公示、四月一日供用開始となりました。現在のところ川根谷内、横越地区において三五六戸（昭和六十二年度末）のご家庭で水洗化いただき大変よろこばれています。

昭和六十三年度末現在の下水道の整備状況は別表のとおりです。



下水道の整備状況

	認可計画	実績
面積	89ha	51ha
管延長	28,869m	19,159m
整備人口	4,800人	2,166人
水洗化人口	4,800人	1,142人

（昭和63年3月31日現在）

国民健康保険被保険者証の更新のお知らせ

国民健康保険被保険者証が九月一日から「ふじ色」に変わりました。今までの「はだ色」の保険証は回収しませんので、ご自分で破棄してください。

『愛の協力運動』ご協力ありがとうございました

平成元年度の「愛の協力運動」に寄せられました浄財は、二四五、四一七円でした。ご協力ありがとうございました。

この「愛の協力運動」は、「防ごう非行、助けよう立ち直り」をスローガンに、毎年七月に社会を明るくする運動として実施されております。

寄せられた浄財は、亀田横越分区保護司会を通じ、地域の青少年の非行防止や、保護観察を受けている人たちの更正資金などに使われ、犯罪や非行のない明るい街づくりに役立てられています。

今後ともこの運動に対するご理解とご協力をお願い申し上げお礼といたします。

9月9日は「救急の日」

119番は 落ち着いて正確に

救急車を呼ぶときのポイント

○事故の発生場所と近くの目標
○どのようなケガか病気か
○ケガ人、病人の容態（簡単に）

献血にご協力を

9月12日(火)

午前10時～午後0時30分
午後1時30分～午後4時
横越村役場